



取扱説明書

バルーン投光機

SBL133IDG

SBL133IDGC

SBL132IE-Y



注意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

SBL133IDGC
X750-025 37 1
X750808-070 1

はじめに

このたびは、新ダイワのバルーン投光機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。本機の取扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 発電機の取扱いについては、発電機の取扱説明書をお読みください。
- 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取扱いができる人が行ってください。また、安全作業上で影響が出るような病気・薬服用・体調不良の場合は、本機の使用を控えてください。
- 本機を使用した作業や本機の取扱いにおいては、関連する法律（労働安全衛生法、電気事業法、電気工事士法、消防法、騒音規制法等）およびそれらの法律に基づく規則を遵守してください。
- 本機を貸し出すときは、必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。
- この取扱説明書は、いつでもご覧いただけるよう、所定の場所に大切に保管してください。紛失・汚損・破損したときは、お求めの販売店にご注文ください。
- ご不明な点、お気づきの点がありましたらお求めの販売店にご相談ください。また、本機についてのお問い合わせ時は、モデル名と製造番号をお知らせください。
- 本機を廃棄される場合は、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

■この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

 **警告**：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。

 **注意**：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合および物的損害が発生する可能性がある場合。

<注意>：本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。

- 『 **注意**』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

目 次

1. 安全上の注意	2
2. 仕様	4
3. 用途	5
4. 各部の名称	5
5. 操作方法	7
5-1. 台車ハンドルの操作	7
5-2. 車輪ブレーキの操作	7
5-3. アウトリガーの操作	8
5-4. 灯具の操作	9
5-5. マストの昇降操作	10
6. 購入時の組立て	11
6-1. 灯具カバーの取外し	11
6-2. バルーン布の取付け	12
7. 運転方法	13
7-1. 点灯	13
7-2. 消灯	15
8. 運搬方法（移動・車載）	16
9. ランプの交換方法	18
10. 灯具の取付け・取外し方法	19
11. 発電機の積み降ろし方法	19
11-1. キャスターステー付きで発電機を使用する場合	19
11-2. キャスターステーなしで発電機を使用する場合	20
12. 点検・整備	22
13. 長期保管	25
14. 故障時の対応	26

1. 安全上の注意

警告：転倒

- 強風で灯具ランプが大きくゆれる場合は、マストを下げてください。
- マストを最大に伸ばしたときの転倒風速は15m/s（バルーン垂直時）ですが、風速12～14m/sでバルーン布がつぶれランプガードに張り付きます。ランプの熱による焼損の防止と併せて、転倒に対する安全確保のためにも風速10m/s（目安：バルーン布がつぶれ始める風速）以上では使用しないでください。
- 地盤のしっかりした水平な場所で使用してください。やむをえず傾斜地で使用する場合は、マストが傾かないよう（垂直になるよう）車輪の下にブロックなどを敷いてレベル調整してください。
- 台車が動かないように、必ず車輪ブレーキを掛けて使用してください。同時に車輪止めも使用してください。
- アウトリガーで本機を固定してください。この時、本機が水平になるよう調整してください。
- 移動・車載など運搬時は、必ずマストを最低位置まで下げてください。
- 車載方向は、発電機側を進行方向（マストが後方）に向けてください。逆に向けると、急ブレーキをかけたときに転倒しやすくなります。
- 車載固定は、必ず車輪ブレーキとロープ掛けを行ってください。尚、ロープのゆるみを防止するため、台車ハンドルを左右どちらかにきって、前輪に車輪止めも使用してください。
- ブレーキ調整時は、本機のブレーキ機能が使用できないため、必ず地盤のしっかりした水平な場所で、車輪に車輪止めを使用し、マストを最低位置まで下げて行ってください。

警告：落下／けが（SBL133IDG, SBL133IDGC）

- フォークリフトで投光機を搬送する場合は、必ず発電機を搭載した状態で、マストを最低位置まで下げ、フォークを奥まで差し込んで行ってください。
- 本機を吊り上げるときは、必ず吊り金具を使用してください。

警告：落下／けが

- 台車から降ろした発電機を搭載するときは、発電機を固定するボルトやナットを確実に締め付けてください。

警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

警告：転倒／けが

- 設置したアウトリガーに注意してください。つまりいて転倒する恐れがあります。

警告：視力障害

- ランプの近くで長時間作業をしたり、ランプを直視しないでください。

注意：けが

- マストの昇降時は、マスト、ウィンチドラム、ワイヤーに触れないでください。
- 灯具の向きを変えるときは、片手で灯具レバーを持って灯具を支えたまま、固定ハンドル（旋回ハンドル・チルトハンドル）をゆるめてください。
- 灯具の向きを変えるときは、不自然な姿勢で行わないでください。
- アウトリガーの設置と収納は、必ずアウトリガーを片手で支えて行ってください。
- アウトリガーを設置または収納するときは、アウトリガーを持った手をマストやウィンチハンドルで挟んだり引っかいたりしないよう注意してください。
- ランプを必要以上の力で締め付けしないでください。破損することがあります。
- 改造したり、部品を外したまま使用しないでください。

⚠ 注意：やけど

- ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、ランプガード、安定器が高温になっていますので触れないでください。

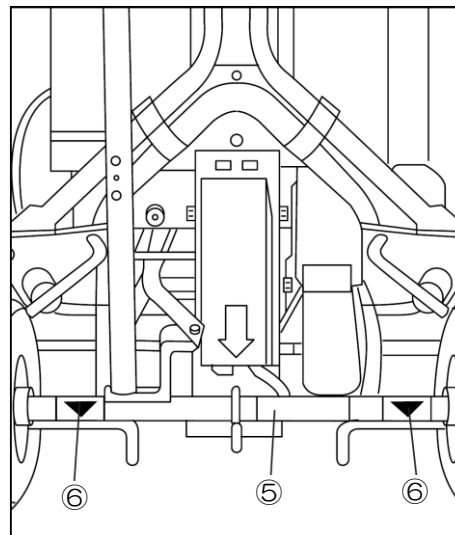
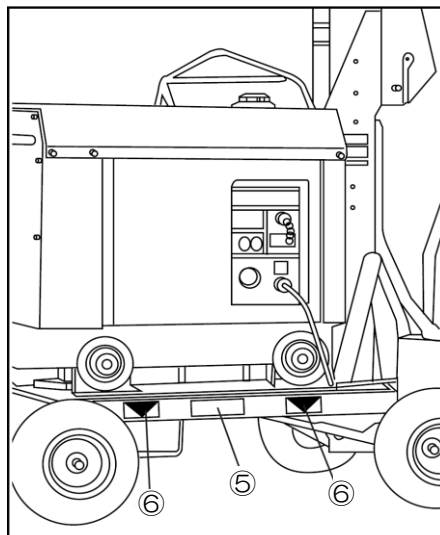
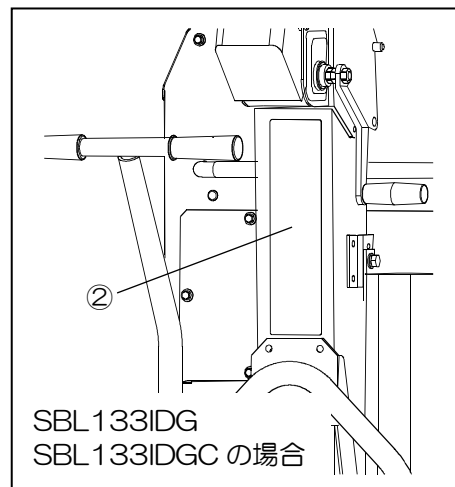
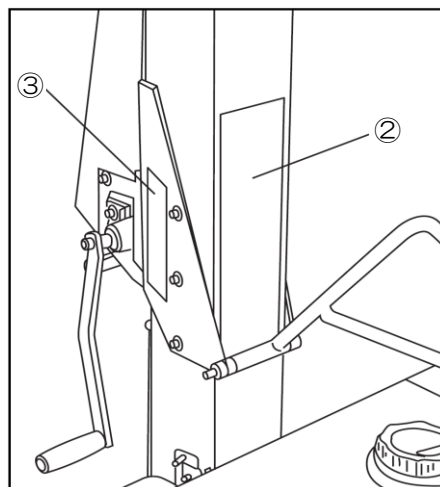
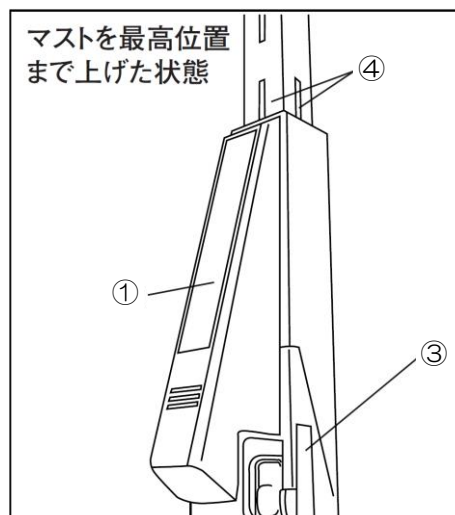
⚠ 注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。

■ 警告ラベルの貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

- ① 危険：けが（転倒）
（部品番号 X505-008260）
- ② 危険：けが（移動、車載）
（部品番号 X505-008250）
- ③ 危険：ウィンチハンドル回転方向
（部品番号 X505-008240）
- ④ 注意：↓（矢印）
（部品番号 X505-007790）
- ⑤ 危険：落下／けが
（部品番号 X505-008270）
- ⑥ ▼フォーク吊り上げ位置
（部品番号 M704-002590）



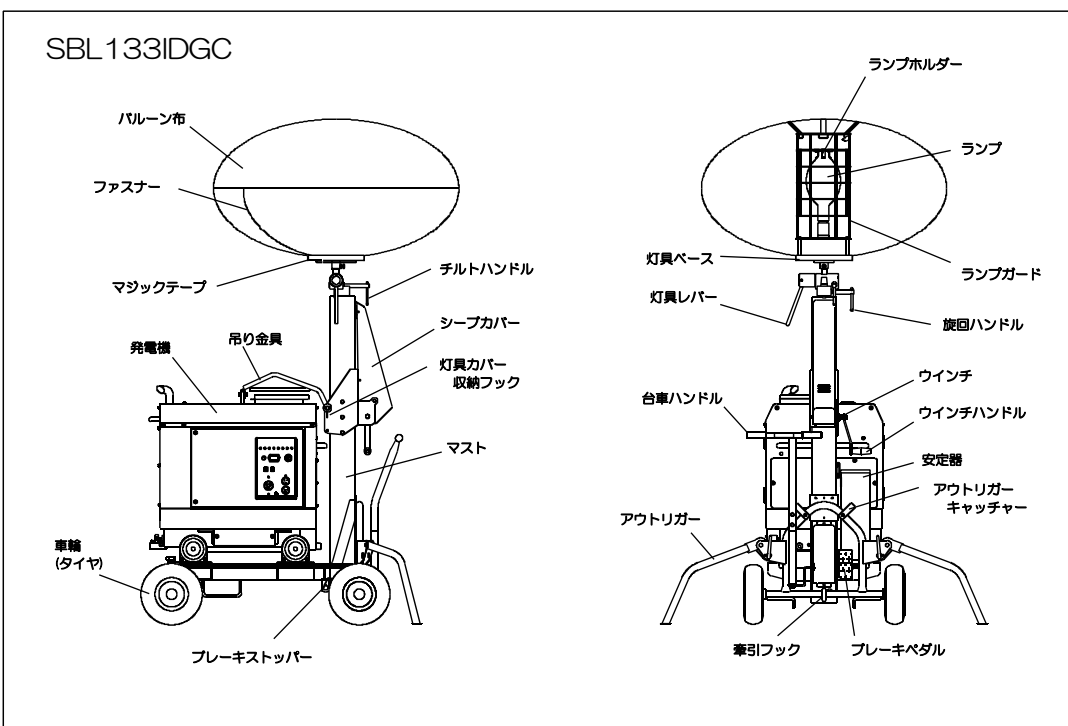
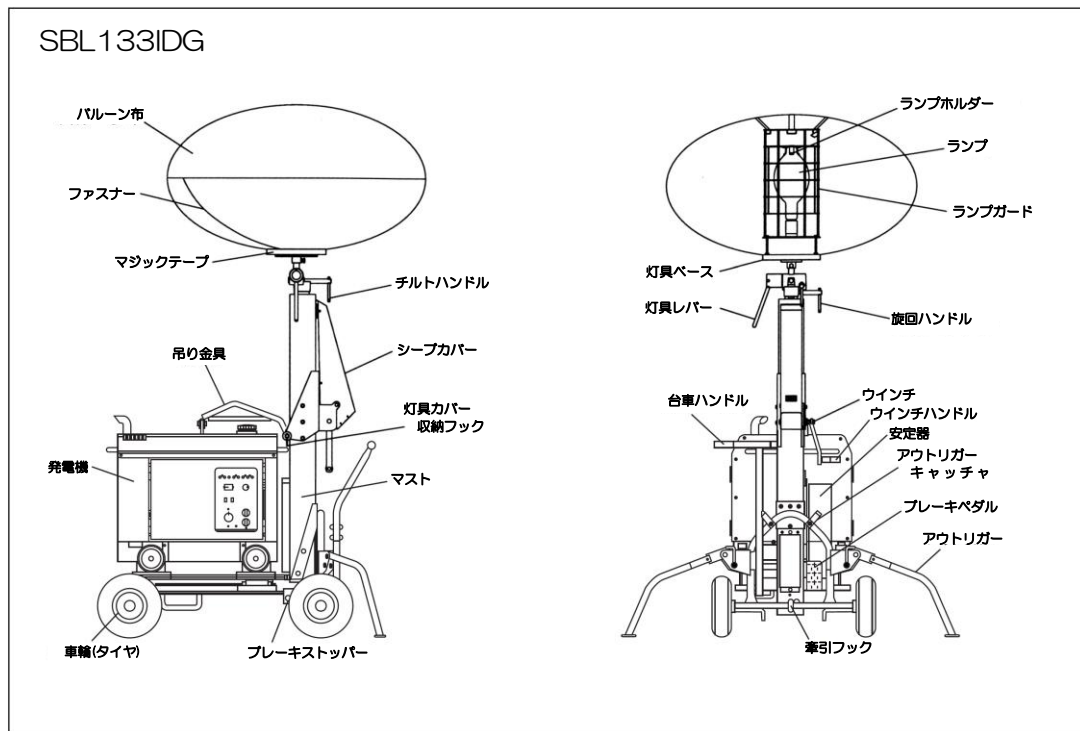
2. 仕様

型 式		SBL133 IDG-F	SBL133 IDG-S	SBL133 IDGC-F	SBL133 IDGC-S	SBL132 IE-YF	SBL132 IE-YS	
定格電圧（V）		100						
定格周波数（Hz）		50/60						
定格消費電力（W）		1,085						
適応電灯の定格消費電力（W）		1000						
乾燥質量（kg）		303		314		202		
投光器	バルーン布		全光タイプ	反射タイプ	全光タイプ	反射タイプ	全光タイプ	反射タイプ
	ラン プ	種 類	メタルハライドランプ					
		消費電力（W） ×数量（灯）	1,000 × 1					
		全光束（lm）	110,000					
		安定器	ピーク進相形 50Hz 用／60Hz 用					
	フ ァ ン	種 類	AC 軸流					
		消費電力（W）	32/28					
	灯具過熱防止装置		サーモスタット					
	マ ス ト	段 数	3 段					
		材 質	硬質アルミニウム					
		昇降装置	手動ウインチ					
		落下防止装置	ストッパーピン					
	台 車	車 輪	φ300 空気入りタイヤ					
		アウトリガー	ワンタッチ式、2 本					
		フォークリフト搬送機能	縦横方向			なし		
	外 形 寸 法	作業時高さ（mm）	5,020～2,470					
		全長（mm）	1,280			1,215		
		全幅（mm）	790			865		
		全高（mm）	1,820					
	乾燥質量（kg）		135			138		
搭 載 発 電 機	モデル名		IDG3100M		IDG3100MC		IEG2800M	
	電圧調整方式		インバーター方式					
	定格周波数（Hz）		50／60					
	定格出力（kVA）		3.1			2.8		
	定格電圧（V）		100					
	燃料の種類		軽油			無鉛ガソリン		
	燃料タンク容量（L）		15.5		16		12.7	
	連続運転可能時間（時間）		21[エコノミー運転]		22[エコノミー運転]		13[エコノミー運転]	
	潤滑油容量（L）		1.9			0.6		
	出力モニターランプ		あり（周波数・出力兼用）			あり		
	過負荷モニターランプ		あり（出力自動遮断）					
	過回転モニターランプ		あり（自動停止）			なし		
	油圧モニターランプ		あり（油圧低下自動停止）			あり（油量低下自動停止）		
	充電モニターランプ		あり（自動停止）			なし		
	水温モニターランプ		あり（自動停止）			なし		
	オイルガードモニターランプ		なし		あり		なし	
	始動方式		セルスタート			セル・リコイル併用		
	乾燥質量（kg）		168		179		64	

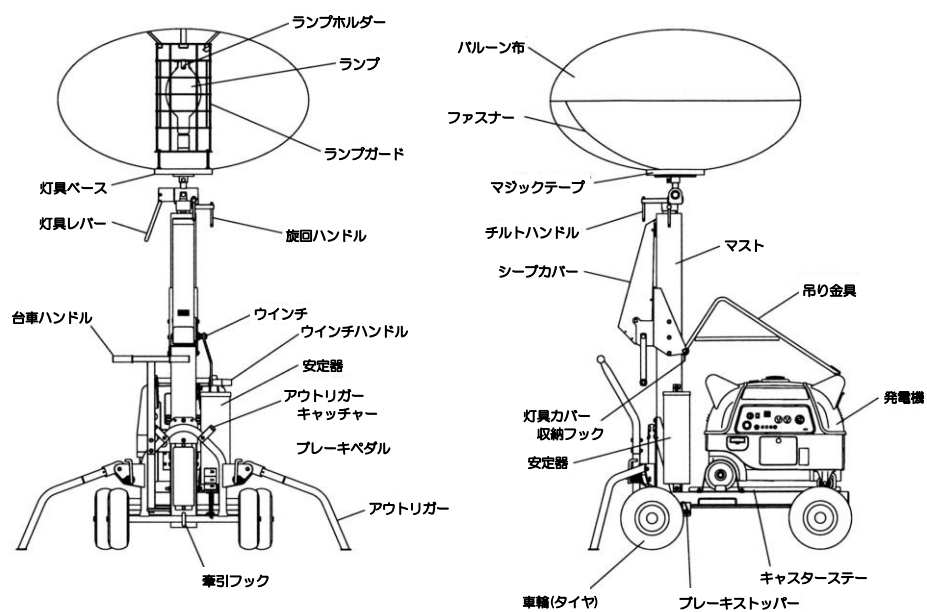
3. 用途

○各種照明

4. 各部の名称



SBL132IE-Y



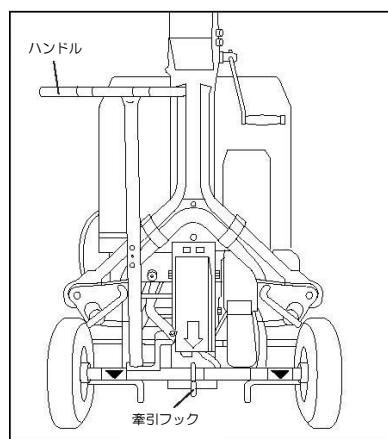
5. 操作方法

5-1. 台車ハンドルの操作

ハンドルを右に切ると前輪が右に曲がり、左に切ると前輪が左に曲がります。

<注意>

- 車輪が埋まるなどして本機を牽引する場合は、必ず台車の牽引フックを使用してください。ハンドルで牽引すると、変形・破損の原因となります。



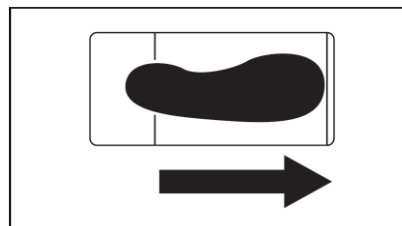
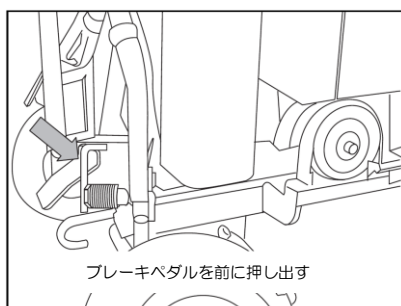
5-2. 車輪ブレーキの操作

<注意>

- ブレーキの効きが弱いときは、車輪の空気圧およびブレーキのストッパー角度を調整してください。（『12. 点検・整備』を参照）

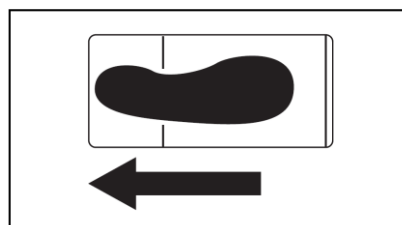
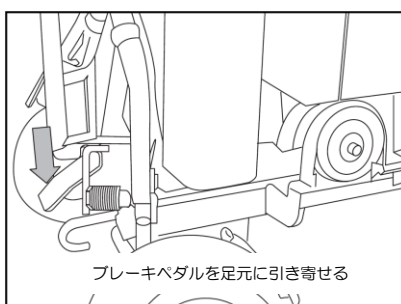
(1) ブレーキ解除

ブレーキペダルを踏み込み前に押し出すと、ブレーキが解除されます。



(2) ブレーキ作動

ブレーキペダルを踏み込み足元に引き寄せると、ブレーキが掛かります。



5-3. アウトリガーの操作

⚠ 警告：転倒／けが

- 設置したアウトリガーに注意してください。つまずいて転倒する恐れがあります。

⚠ 注意：けが

- アウトリガーの設置と収納は、必ずアウトリガーを片手で支えて行ってください。
- アウトリガーを設置または収納するときは、アウトリガーを持った手をマストやウインチハンドルで挟んだり引っかいたりしないように注意してください。

(1) アウトリガーの設置

- 1 アウトリガーをアウトリガーキャッチャーから引き出し、地面に下ろします。アウトリガーは自動でロックされます。

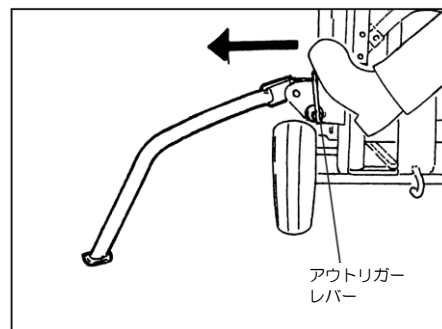
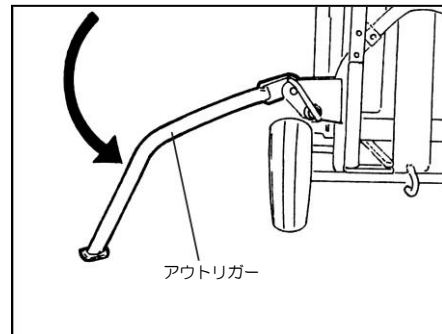
<注意>

- アウトリガーをロックできる設置高さは水平位置から上下約 100mmの範囲です。傾斜地で、車輪の下にブロックを敷いたときなど、アウトリガーの設置高さが変わりますので、注意してください。

- 2 アウトリガーを持ち上げ、ロックの確認をします。

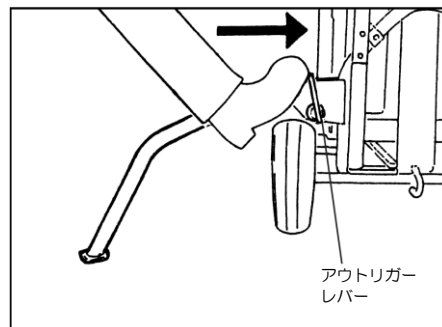
<注意>

- ロックが不十分な場合は、アウトリガーレバーを外側（反マスト側）に軽く踏み込んでください。



(2) アウトリガーの収納

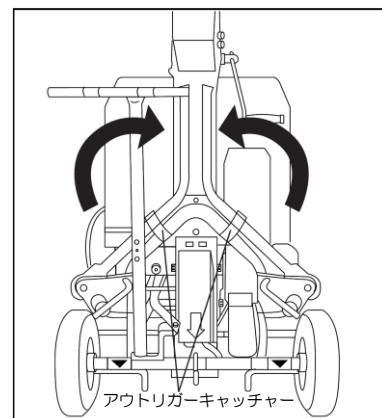
- 1 アウトリガーレバーをマスト側に踏み込んで、ロックを解除します。



- 2 踏み込んだまま、アウトリガーを持ち上げ、アウトリガーキャッチャーに押し込みます。

<注意>

- 本機を移動させる時は、必ずアウトリガーを収納してください。



5-4. 灯具の操作

⚠ 警告：感電

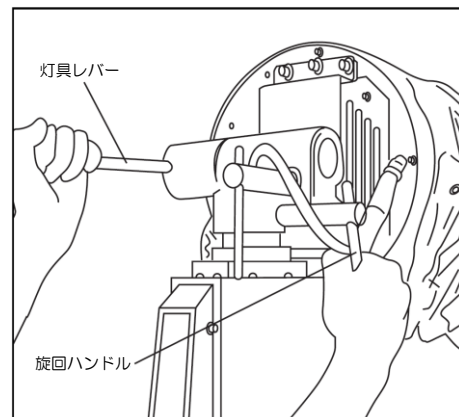
- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。

⚠ 注意：けが・やけど

- 灯具の向きを変えるときは、片手で灯具レバーを持って灯具を支えたまま、固定ハンドル（旋回ハンドル・チルトハンドル）をゆるめてください。
- ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、ランプガード、安定器が高温になっていますので触れないでください。
- 灯具の向きを変えるときは、不自然な姿勢で行わないでください。

（１）灯具の左右旋回調整

- ↓ 1 灯具レバーを片手で持って、旋回ハンドルをゆるめます。
- ↓ 2 灯具レバーを動かして左右の向きを調整し、旋回ハンドルを締め付けます。
- ↓ 3 旋回ハンドルを両手でもう一度締め付け、灯具を確実に固定します。



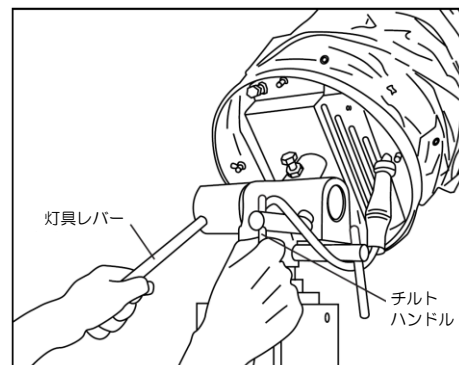
（２）灯具の上下角度調整

反射タイプのバルーンは、照射の指向性がありますので、用途に応じて傾斜させて使用してください。また、灯具の収納は水平に倒して行います。

<注意>

- 水平に倒すと受風面積が増えますので、傾斜角度は垂直から 45° の範囲で使用してください。

- ↓ 1 灯具レバーを片手で持って、チルトハンドルをゆるめます。
- ↓ 2 灯具レバーを動かして上下の向きを調整し、チルトハンドルを締め付けます。
- ↓ 3 チルトハンドルを両手でもう一度締め付け、灯具を確実に固定します。



<注意>

- 補助用バネと灯具の重さが釣り合い、チルトハンドルを締め付けていなくても灯具が固定されたように見えるときがありますので、チルトハンドルの締め忘れには注意してください。特に、垂直位置での締め忘れには注意してください。

5-5. マストの昇降操作



注意：けが

- マストの昇降時は、マスト、ウインチドラム、ワイヤーに触れないでください。

<注意>

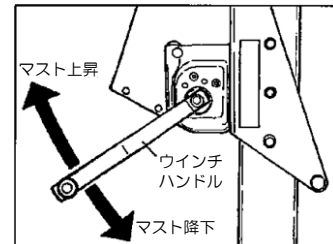
- ウインチドラム側面にあるリングギヤのグリスが切れると、ウインチの寿命が低下します。『12. 点検・整備』の項に従って、定期的にグリスを塗ってください。

(1) マスト上昇

ウインチハンドルを右に回す（時計回転）と、マストが上昇します。

<注意>

- マストが最高位置にくるとウインチハンドルの回転が重くなりますので、それ以上、無理な力を加えないでください。赤色の矢印ラベルが見える位置が、最高位置です。無理に回すとウインチ、ワイヤー、滑車部の故障や破損の原因となります。

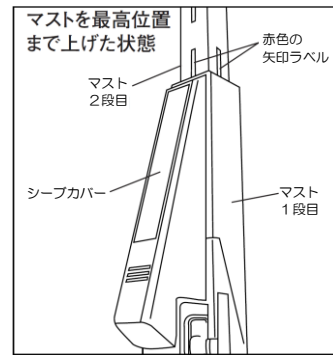


(2) マスト降下

ウインチハンドルを左に回す（反時計回転）と、マストが降下します。

<注意>

- マストが最低位置を過ぎると、逆巻防止装置が働きウインチハンドルが動かなくなります。無理にハンドルを回さないでください。



6. 購入時の組立て

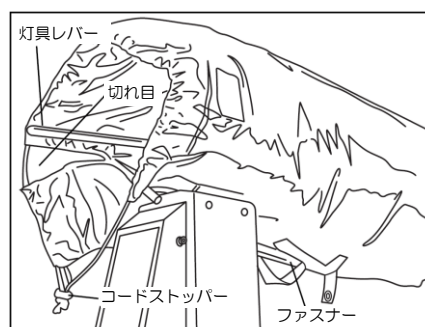
工場出荷状態ではバルーン灯具にカバーを装着していますが、バルーン布が取り付けられておりませんので、次の手順で取り付けてご使用ください。

6-1. 灯具カバーの取外し

- 1 車輪ブレーキを掛けます。（『5-2. 車輪ブレーキの操作』を参照）
- 2 アウトリガーで本機を固定します。（『5-3. アウトリガーの操作』を参照）
- 3 灯具を水平に倒して固定します。（『5-4. 灯具の操作』を参照）
- 4 灯具カバーを外します。

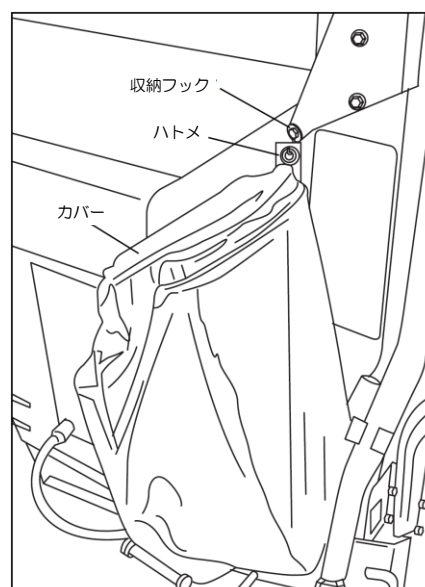
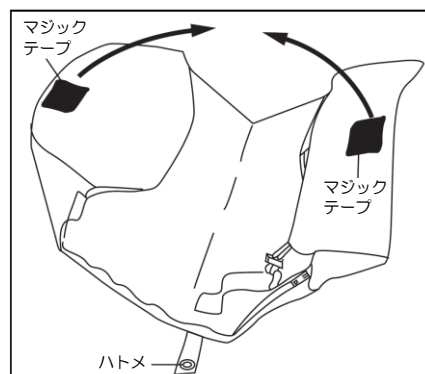
<灯具カバーの外し方>

- ①ひもの結び目を解き、コードストッパーをずらし、口元を上げます。
- ②カバーの切れ目から外に突き出ている灯具レバーをカバーの内側に入れます。
- ③ファスナーを開けて、取り外します。



<灯具カバーの収納>

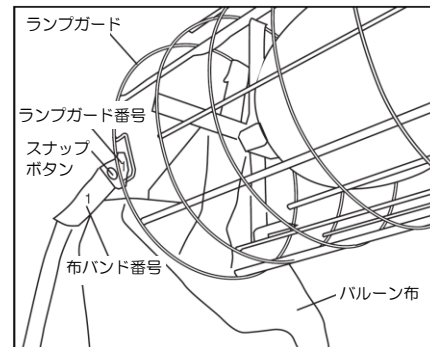
- ①ファスナーを閉じます。
- ②端にマジックテープがくるようにカバーの両端を折ります。
- ③真中で折り、マジックテープ同士を貼り合せます。
- ④ハトメを収納フックに掛けます。



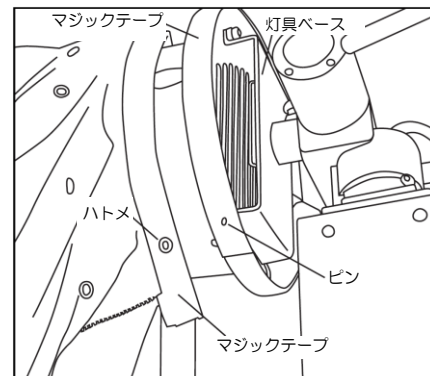
6-2. バルーン布の取付け

1 バルーン布側面のファスナーを開きます。

2 バルーン布内側にある布バンド3本をランプガード先端に通し、スナップボタンで取り付けます。このとき、布バンドとランプガードに付いている番号を一致させてください。尚、布バンドがねじれて取り付けられないように、3本ともランプガードの内側から通してください。



3 バルーン布をランプガードに被せて、灯具ベースとバルーン布のマジックテープ部分を貼り合せます。このとき、灯具ベース外周にあるピンがバルーン布のハトメに入るように位置決めしてください。

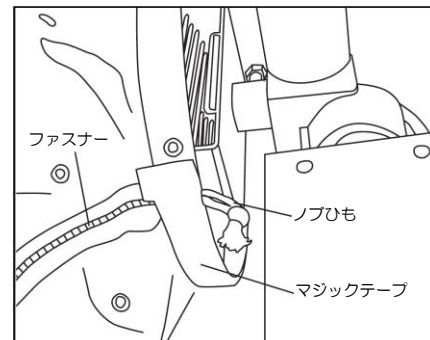


4 バルーン布側面のファスナーを閉じます。

5 マジックテープの端を少し剥してファスナーのノブひもを挟み、再び貼り付けます。

<注意>

- 強風によりファスナーが開くことがありますので、必ずノブひもをマジックテープで挟んでください。



7. 運転方法

⚠ 警告：転倒

- 強風で灯具ランプが大きくゆれる場合は、マストを下げてください。
- マストを最大に伸ばしたときの転倒風速は 15m/s(バルーン垂直時)ですが、風速 12~14m/s でバルーン布がつぶれてランプガードに張り付きます。ランプの熱による焼損の防止と併せて、転倒に対する安全確保のためにも風速 10m/s (目安：バルーン布がつぶれ始める風速) 以上では使用しないでください。
- 地盤のしっかりした水平な場所で使用してください。やむをえず傾斜地で使用する場合は、マストが傾かないよう(垂直になるよう)車輪の下にブロックなどを敷いてレベル調整してください。
- アウトリガーで本機を固定して使用してください。この時、本機が水平になるよう調整してください。
- 台車が動かないように、必ず車輪ブレーキを掛けて使用してください。同時に車輪止めも使用してください。

⚠ 警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 警告：視力障害

- ランプの近くで長時間作業をしたり、ランプを直視しないでください。

⚠ 注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。

<注意>

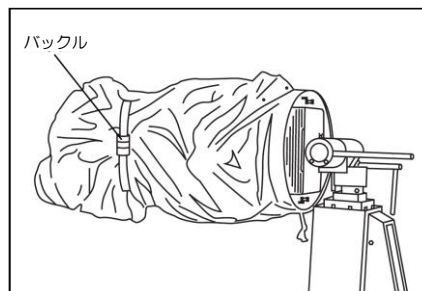
- 風速 12~14m/s になると、バルーン布がつぶれてランプガードに張り付き、ランプの熱で焼損します。上空で風速 10m/s (目安：バルーン布がつぶれ始める風速) 以上あるときは、マストを下げてください。マストを下げて、バルーン布がつぶれるようであれば、使用を中止してください。
- 屋外保管のときは、バルーン布をバックルで留め、必ずカバーを掛けてください。風による擦れや紫外線による劣化で、バルーン布の寿命が低下します。
- バルーン投光機点灯中は、発電機に他の電気機器を接続しないでください。電動工具などと同時使用すると、始動時に高い電流が流れてランプが立ち消えます。
- 発電機については、発電機の取扱説明書をお読みください。

7-1. 点灯

SBL133IDG、SBL133IDGC の場合

運転前に、始業前点検を行ってください。(『12. 点検・整備』を参照)

- 1 車輪ブレーキを掛けます。(『5-2. 車輪ブレーキの操作』を参照)
- 2 アウトリガーで本機を固定します。
(『5-3. アウトリガーの操作』を参照)
- 3 灯具カバーを外します。
(『6-1. 灯具カバーの取外し』を参照)
- 4 バルーン布を束ねて固定しているバックルを外します。



- 5 灯具の向き（上下角度・旋回）を調整します。（『5-4. 灯具の操作』を参照）
- 6 発電機の出カコンセントに電源コードが接続され、発電機の出カスイッチが『OFF』になっていることを確認します。

<注意>

- 発電機始動後、出カスイッチ『ON』状態で電源コードを接続すると、コンセントとプラグの間でスパークが発生します。必ず出カスイッチ『OFF』状態で電源コードを接続してください。

- 7 発電機を始動させます。（別紙『発電機の手取説明書』を参照）
- 8 発電機の出カスイッチを『ON』にして、ランプを点灯します。

<注意>

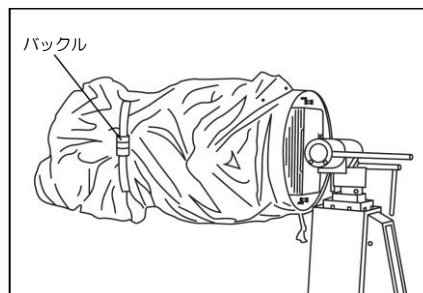
- ランプの点灯が完全に安定するまでに 10～15 分程度かかります。

- 9 マストを上昇させて、灯具を任意の高さに合わせます。
（『5-5. マストの昇降操作』を参照）

SBL132IE-Y の場合

運転前に、始業前点検を行ってください。（『12. 点検・整備』を参照）

- 1 車輪ブレーキを掛けます。（『5-2. 車輪ブレーキの操作』を参照）
- 2 アウトリガーで本機を固定します。（『5-3. アウトリガーの操作』を参照）
- 3 灯具カバーを外します。（『6-1. 灯具カバーの取外し』を参照）
- 4 バルーン布を束ねて固定しているバックルを外します。
- 5 灯具の向き（上下角度・旋回）を調整します。
（『5-4. 灯具の操作』を参照）
- 6 発電機の出カコンセントに電源コードが接続されていることを確認します。



<注意>

- 発電機始動後に電源コードを接続すると、コンセントとプラグの間でスパークが発生しますので、必ず発電機始動前に電源コードを接続してください。

- 8 発電機を始動させます。（別紙『発電機の手取説明書』を参照）
発電機が始動すると、ランプが点灯します。

<注意>

- 搭載発電機は、エンジン回転が完全に立ち上がり、定格電圧が供給できるようになってから出力されるよう制御されているため、出カスイッチを装備していません。したがって、ランプの点灯は発電機の『始動』で行います。
- ランプの点灯が完全に安定するまでに 10～15 分程度かかります。

- 9 マストを上昇させて、灯具を任意の高さに合わせます。
（『5-5. マストの昇降操作』を参照）

7-2. 消灯

SBL133IDG、SBL133IDGC の場合

↓1 マストを降下させます。（『5-5. マストの昇降操作』を参照）

↓2 発電機の出カスイッチを『OFF』にして、ランプを消灯させます。

<注意>

- 電源プラグ抜き取りによるランプの消灯は行わないでください。コンセントとプラグの間にスパークが発生します。

↓3 発電機を停止させます。（別紙『発電機取扱説明書』を参照）

↓4 ランプ消灯後、バルーン布のファスナーを開けて5分間自然冷却を行います。

<注意>

- すぐに、バルーン布を束ねると、ランプの熱でバルーン布が劣化します。

↓5 灯具を水平に倒します。（『5-4. 灯具の操作』を参照）

↓6 バルーン布をランプガードに巻き付け、バックルで束ねます。

↓7 灯具カバーを掛けます。（外すときの逆手順）

<注意>

- ファスナーを閉じるとき、バルーン布を挟まないよう注意してください。
- コードストッパーは、ずれるおそれがありますので、カバー口元をコードストッパーで絞ったあと、ひもを結び付けてください。

SBL132IE-Y の場合

↓1 マストを降下させます。（『5-5. マストの昇降操作』を参照）

↓2 発電機を停止させます。（別紙『発電機取扱説明書』を参照）
発電機が停止すると、ランプが消灯します。

<注意>

- 電源プラグ抜き取りによるランプの消灯は行わないでください。コンセントとプラグの間にスパークが発生します。
- 搭載発電機は、エンジン回転が下がって定格電圧が供給できなくなると出力されないよう制御されているため、出カスイッチを装備していません。したがって、点灯と同様にランプの消灯も発電機の『停止』で行います。

↓3 ランプ消灯後、バルーン布のファスナーを開けて5分間自然冷却を行います。

<注意>

- すぐに、バルーン布を束ねると、ランプの熱でバルーン布が劣化します。

↓4 灯具を水平に倒します。（『5-4. 灯具の操作』を参照）

↓5 バルーン布をランプガードに巻き付け、バックルで束ねます。

↓6 灯具カバーを掛けます。（外すときの逆手順）

<注意>

- ファスナーを閉じるとき、バルーン布を挟まないよう注意してください。
- コードストッパーは、ずれるおそれがありますので、カバー口元をコードストッパーで絞ったあと、ひもを結び付けてください。

8. 運搬方法（移動・車載）

⚠ 警告：転倒

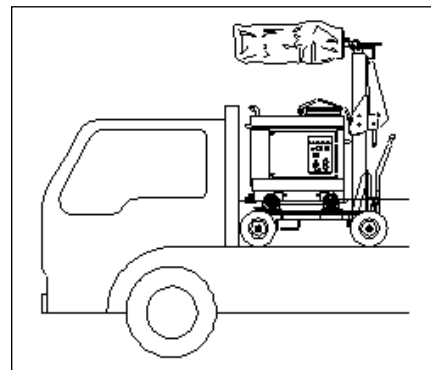
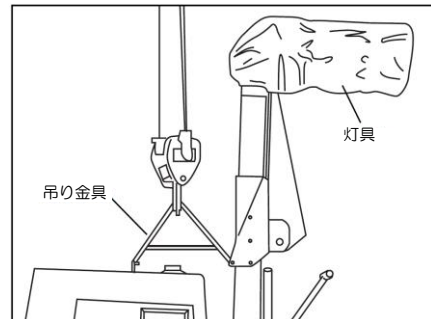
- 移動・車載など運搬時は、必ずマストを最低位置まで下げてください。
- 車載方向は、発電機側を進行方向（マストが後方）に向けてください。逆に向けると、急ブレーキを掛けたときに転倒しやすくなります。
- 車載固定は、必ず車輪ブレーキとロープ掛けを行ってください。尚、ロープのゆるみを防止するために、台車ハンドルを左右どちらかにきって、前輪に車輪止めも使用してください。

⚠ 警告：落下／けが（SBL133IDG、SBL133IDGC の場合）

- フォークリフトで投光機を搬送する場合は、必ず発電機を搭載した状態で、マストを最低位置まで下げ、フォークを奥まで差し込んで行ってください。
- 本機を吊り上げるときは、必ず吊り金具を使用してください。

<注意>

- 車輪が埋まるなどして本機を牽引する場合は、必ず台車の牽引フックを使用してください。指定以外の部分を牽引すると、変形・破損の原因となります。
- 灯具にショックを与えないでください。ランプ破損の原因になります。
- 本機を吊り上げるときは、灯具を水平に倒し、灯具が吊り金具の反対に向くように旋回させてください。灯具が吊り金具の近くにあると、クレーンのフックやワイヤーが接触し、破損や汚れの原因になります。
- 車載運搬時は、必ず灯具にカバーを掛けて、灯具先端が車両の進行方向に向くように固定してください。カバーなしで車載運搬すると、バルーン布が風で叩かれて破損します。また、逆に向けると、カバー開口部から風をはらみ、カバーが脱落するだけでなくバルーン布が破損する原因にもなります。
- 本機はマストや灯具がクレーンのフックやワイヤーの接触で破損することを防止するため、吊り上げたときにマスト側に少し傾くようになっていますので注意してください。



- 車載運搬時は、灯具固定用ハンドル（旋回ハンドル・チルトハンドル）を確実に締め付けてください。締め付けが弱いと灯具が動き、脱落や破損の原因になります。
- 台車ハンドルにはロープ掛けを行わないでください。ハンドル破損の原因になります。
- 輸送前にオイルガード内を点検し、液体が溜まっていれば排出してください。

SBL133IDG、SBL133IDGC は、フォークリフトで直接投光機下部をすくい上げて搬送が可能です。

<注意>

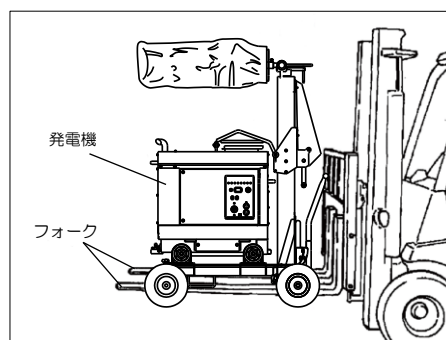
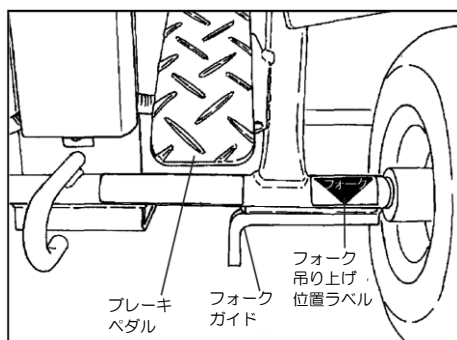
- フォークリフトで投光機を搬送する場合は、必ず発電機を搭載した状態で、マストを最低位置まで下げ、フォークを奥まで差し込んで行ってください。
- 投光機の前方からフォークリフトですくい上げないでください。搬送時にバランスが悪くなり落下する恐れがあります。
- フォークリフトで投光機をすくい上げて搬送する場合は、急勾配を前進で降りたり急旋回しないでください。投光機がフォークからすべり落下する恐れがあります。
- SBL132IE-Y は、フォークリフトで直接投光機下部をすくい上げることができません。吊り金具を使用してください。

(1) 投光機のマスト側（後方）からフォークリフトですくい上げる場合

灯具を水平に倒し、灯具先端を前方に向けて固定します。フォークをフォーク位置ラベルに合わせ奥まで差し込んですくい上げます。

<注意>

- フォークは、必ず指定したフォークガイドに入るように差し込んでください。フォークガイド内にフォークを差し込まないと、投光機が損傷したり搬送時にバランスが悪くなり落下する恐れがあります。

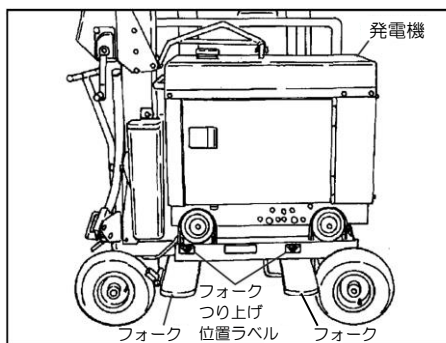
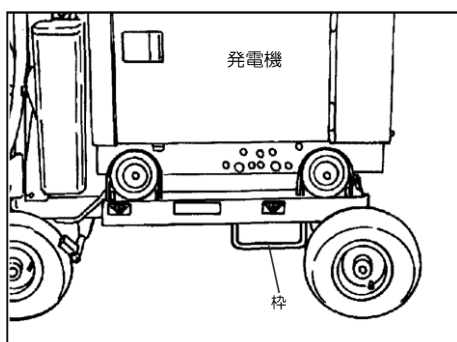


(2) 投光機の側面からフォークリフトですくい上げる場合

灯具を水平に倒し、灯具先端を前方に向けて固定します。フォークをフォーク位置ラベルに合わせ奥まで差し込んですくい上げます。

<注意>

- 投光機の前輪側に差し込むフォークは、必ず指定した位置の枠内に入るように差し込んでください。枠内にフォークを差し込まないと、搬送時にバランスが悪くなり落下する恐れがあります。



9. ランプの交換方法

⚠ 警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

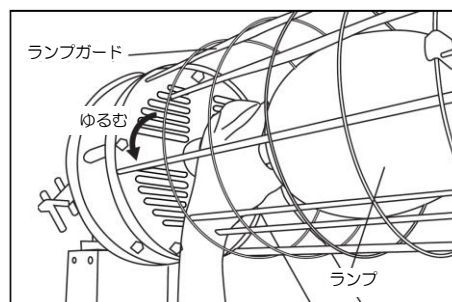
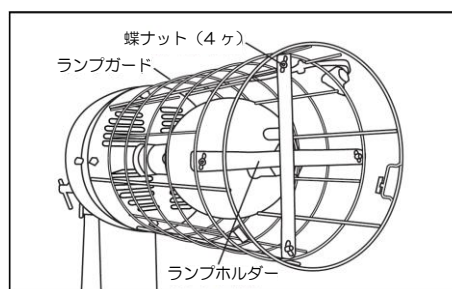
⚠ 注意：けが・やけど

- マスト昇降時は、マスト、ウインチドラム、ワイヤーに触れないでください。
- 灯具の向きを変えるときは、片手で灯具レバーを持って灯具を支えたまま、固定ハンドル（旋回ハンドル・チルトハンドル）をゆるめてください。
- ランプを必要以上の力で締め付けしないでください。破損することがあります。
- ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、ランプガード、安定器が高温になっていますので触れないでください。

<注意>

- ランプは、岩崎電気製 1000W メタルハライドランプ（定格電圧 250V）『MF1000B/BD』を使用してください。交換したランプを廃棄するときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

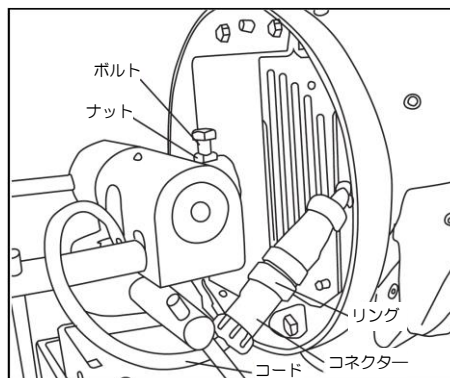
- 1 バルーン布を取り外します。
（『6-2. バルーン布の取付け』の逆手順）
- 2 蝶ナット 4 ヶを外し、ランプホルダーを取り外します。
- 3 ランプガードの格子が広い部分（ランプ根元側）から両手を入れて、ランプを左に回します。
- 4 ランプがゆるんだら、ランプガード先端から手を入れてランプを抜き取ります。
- 5 ランプを取り付けます。（上記の逆手順で）
- 6 バルーン布を取り付けます。
（『6-2. バルーン布の取付け』を参照）



10. 灯具の取付け・取外し方法

バルーン灯具を、スタンドやポールに取り付けて使用するときは、次の方法で取り外してください。取付けは逆の手順で行います。

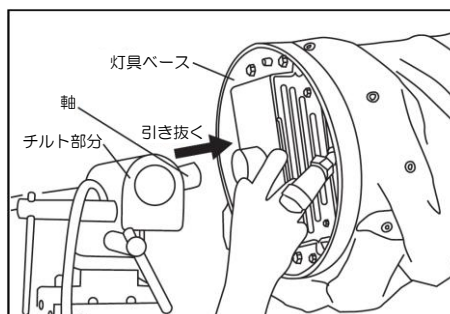
- 1 車輪ブレーキを掛けます。
(『5-2. 車輪ブレーキの操作』を参照)
- 2 マストを最低位置にします。
(『5-5. マストの昇降操作』を参照)
- 3 灯具ベース下のコードの接続を外します。
コネクタのリングを左に回して外し、引き抜いてください。
- 4 灯具を水平よりやや起こした角度で固定します。
(『5-4. 灯具の操作』を参照)



<注意>

- 水平まで下げると、手順 5 でナットとボルトを外したときに、灯具が滑って落下するおそれがあります。

- 5 チルト部分を残して、灯具ベースから上の部分を取り外します。ナットとボルトをゆるめて外し、灯具をバランス良く持って、軸から引き抜いてください。



11. 発電機の積み降ろし方法

⚠ 警告：落下／けが

- 台車から降ろした発電機を搭載するときは、発電機を固定するボルトやナットを確実に締め付けてください。

発電機を単体で使用するときは、次の手順で積み降ろしを行ってください。
搭載は逆の手順で行います。

<注意>

- 発電機を台車に搭載したときは、発電機の周波数が安定器と同一になっていることを確認してください。

11-1. キャスターステー付きで発電機を使用する場合

工事作業車への搭載でロープ固定だけでは不安定な場合は、次の手順で発電機を台車から降ろしキャスターステー付きで使用してください。搭載は次の手順で行います。

SBL132IE-Yの場合

- 1 車輪ブレーキを掛けます。
(『5-2. 車輪ブレーキの操作』を参照)
- 2 灯具を水平に倒し、灯具が吊り金具の反対に向くように旋回させてください。
(『5-4. 灯具の操作』を参照)

- 3 電源コードを留めている結束バンドを外し、発電機の出カコンセントから電源コードを抜き取ります。結束バンドは、先端を持って曲げるとツメが外れます。

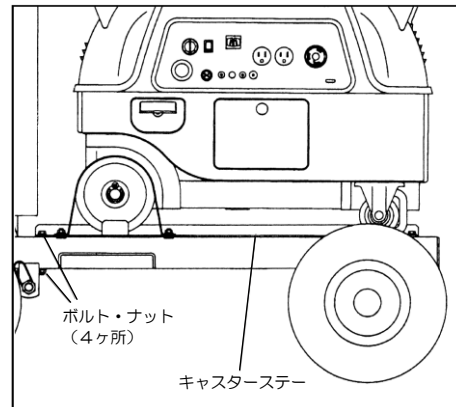
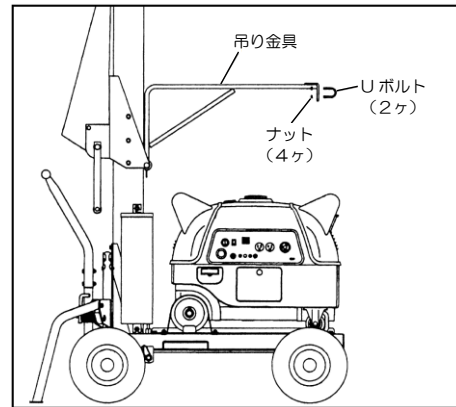
- 4 吊り金具と発電機を固定しているUボルトとナットを外し、吊り金具をマスト側に押し上げます。

<注意>

- このナットにはゆるみ止め機能がありますので、締付けは、Uボルトのガタがなくなる程度にしてください。締めすぎると発電機のハンドルが変形します。

- 5 キャスターステーと台車を固定しているボルト・ナット（4ヶ所）を外します。

- 6 キャスターステーが付いた状態で、発電機を台車から降ろします。



11-2. キャスターステーなしで発電機を使用する場合

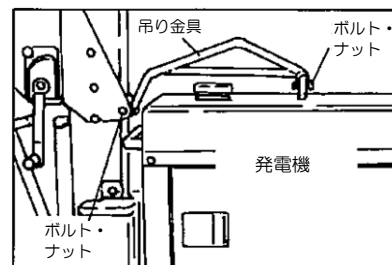
発電機のキャスター機能を利用して使用するときは、次の手順で台車から降ろしてください。搭載は逆の手順で行います。

SBL133IDG、SBL133IDGC の場合

- 1 車輪ブレーキを掛けます。（『5-2. 車輪ブレーキの操作』を参照）
- 2 灯具を水平に倒し、灯具が吊り金具の反対に向くように旋回させてください。（『5-4. 灯具の操作』を参照）

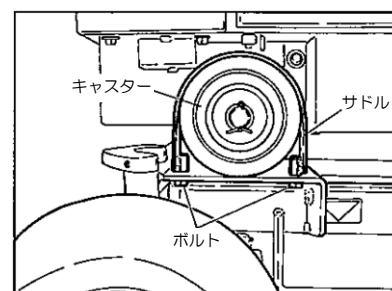
- 3 発電機の出カコンセントから電源コードを抜き取ります。

- 4 吊り金具と発電機を固定しているボルトとナットを外し、吊り金具をマスト側に押し上げます。



- 5 発電機車輪（キャスター）の押え金具（サドル）を固定しているボルト8ヶを外します。

- 6 発電機を台車から降ろします。



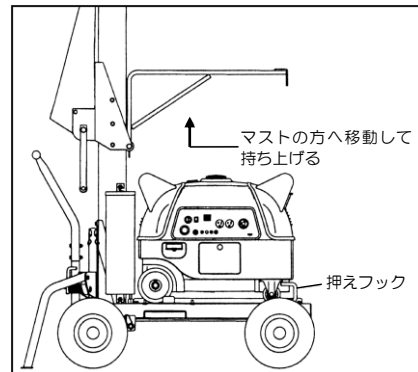
SBL132IE-Y の場合

1 車輪ブレーキを掛けます。（『5-2. 車輪ブレーキの操作』を参照）

2 灯具を水平に倒し、灯具が吊り金具の反対に向くように旋回させてください。
（『5-4. 灯具の操作』を参照）

3 電源コードを留めている結束バンドを外し、発電機の出カコンセントから電源コードを抜き取ります。結束バンドは、先端を持って曲げるとツメが外れます。

4 吊り金具と発電機を固定している U ボルトとナットを外し、吊り金具をマスト側に押し上げます。



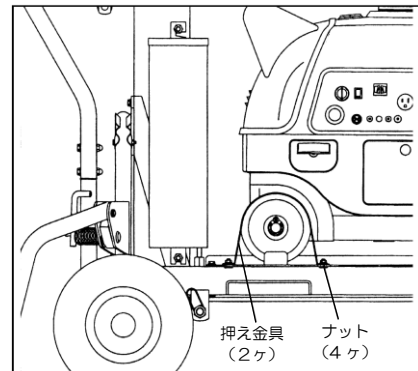
<注意>

- このナットにはゆるみ止め機能がありますので、締付けは、U ボルトのガタがなくなる程度にしてください。締めすぎると発電機のハンドルが変形します。

5 発電機車輪（大）の押え金具を固定しているナット 4 ケを外します。

6 発電機車輪（小）の押えフックが車輪から離れるまで、発電機をマストの方へ移動させます。

7 キャスターステーなしの状態、発電機を台車から降ろします。



12. 点検・整備



警告：感電

- ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。



注意：やけど

- ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、ランプガード、安定器が高温になっていますので触れないでください。

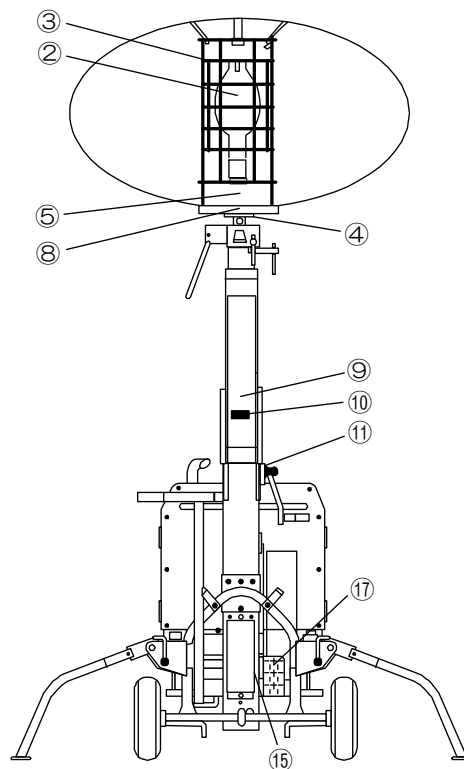
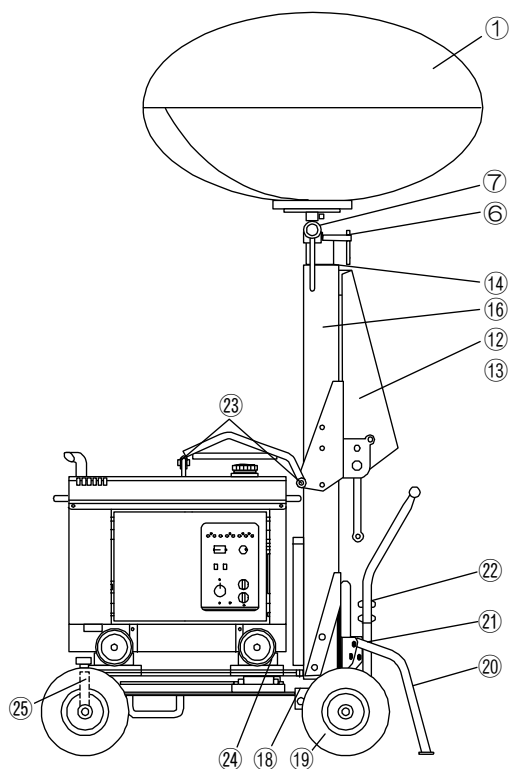
本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表に従って定期的に点検・整備を行ってください。

表の番号はイラストの符号に対応しています。

<注意>

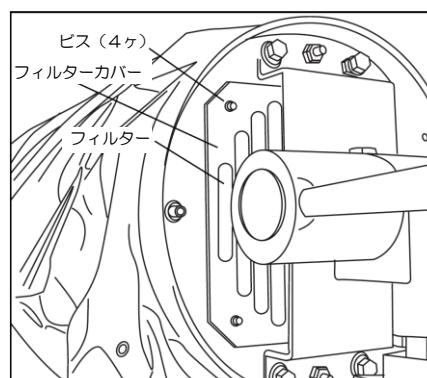
- 発電機については、発電機の取扱説明書をお読みください。
- 始業前点検以外は、専門技術者が行ってください。
- 部品交換は必ず純正品を使用してください。
- 消耗品を廃棄するときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

	No.	点検箇所	点検内容	始業前	100 時間 ごと	200 時間 ごと	処置
灯 具	①	バルーン布	破れ	○			補修、交換
			汚れ				ふき取り、交換
	②	ランプ	ゆるみ	○			増し締め
	③	ランプホルダー固定蝶ナット	ゆるみ	○			増し締め
	④	コネクター	ゆるみ	○			増し締め
	⑤	ファン	異音 (点灯時確認)	○ (始動時)			交換
	⑥	旋回・チルトハンドル	ゆるみ	○			増し締め
	⑦	旋回・チルト軸	動き		○		スプレーグリス塗布
マ ス ト	⑧	フィルター	目詰まり		○		揉み洗い
	⑨	ワイヤー	折れ、ささくれ	○			交換
	⑩	ワイヤー端末固定ボルト	ゆるみ		○		増し締め
	⑪	ウインチ	ブレーキの効き	○			修理
			リングギヤのグリス		○		モリHDグリス塗布
	⑫	落下防止装置	ワイヤーをゆるめて作動を確認	○			修理
	⑬	1 段目の滑車	動き		○		モリHDグリス塗布
	⑭	2 段目と3 段目の間の滑車	動き		○		スプレーグリス塗布
台 車	⑮	電源ケーブル	被覆の損傷	○			補修、交換
	⑯	マスト	動き	○			グリス塗布
			がたつき			○	樹脂メタル交換
	⑰	ブレーキペダル	動き	○			モリHDグリス塗布
	⑱	ブレーキ	効き	○			ストッパー角度調整
	⑲	車輪	空気圧	○			空気圧調整
	⑳	アウトリガー	動き		○		モリHDグリス塗布
	㉑	アウトリガーレバー	動き		○		モリHDグリス塗布
	㉒	ハンドル固定ボルト	ゆるみ		○		増し締め
	㉓	吊り金具固定ボルト	ゆるみ		○		増し締め
	㉔	発電機固定ボルト	ゆるみ		○		増し締め
	㉕	前輪操舵軸	動き			○	モリHDグリス塗布



(1) フィルターの洗浄

- 1 ↓ フィルターカバー固定のビス4ヶを外します。
- 2 ↓ フィルターカバーを、コードの出ている方向から取り出します。
- 3 ↓ フィルターを取り出し、水の中で、軽く揉み洗います。



(2) バルーン布の汚れ落とし

中性洗剤をつけた布で、汚れをふきとってください。

<注意>

- アルコール、ガソリンなどの溶剤は使用しないでください。
- 生地のコーティングを傷めますので、揉み洗いや洗濯機洗いは行わないでください。

(3) バルーン布の補修

補修用シート（裏面接着式）を、バルーン布の表側から貼り付けます。補修箇所のほこりや油分をきれいに落として貼り付け、しっかり押え付けてください。

(4) ブレーキの調整

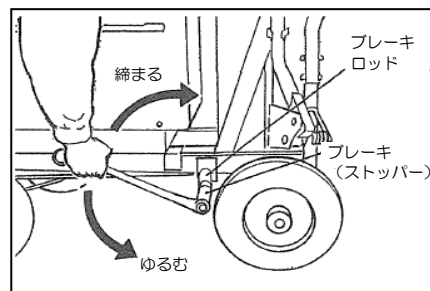


警告：転倒

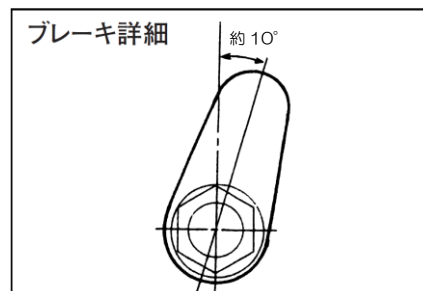
- ブレーキ調整時は、本機のブレーキ機能が使用できないため、必ず地盤のしっかりした水平な場所で、車輪に車輪止めを使用し、マストを最低位置まで下げて行ってください。

車輪の空気圧を 196～245kPa (2.0～2.5kgf/cm²) に調整してもブレーキの効きが弱いようであれば、次の手順でブレーキのストッパー角度を補正してください。

- 1 本機を水平な場所に移動し車輪止めを使用します。
- 2 車輪ブレーキを解除します。（「5-2. 車輪ブレーキの操作」を参照）
- 3 左右のブレーキロッドのナットをゆるめます。

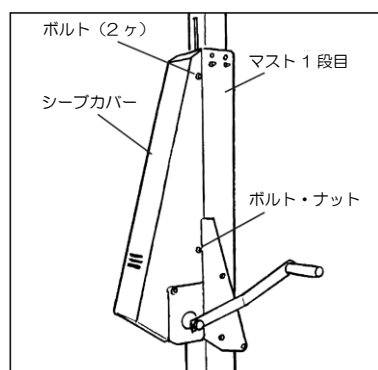


- 4 ブレーキのストッパー角度を真上より車輪側に約 10° 傾けた位置にセットします。
- 5 左右のブレーキロッドのナットを締めこんでストッパーを固定します。
ブレーキの効きが悪い場合は、更にストッパー角度を増やしてください。

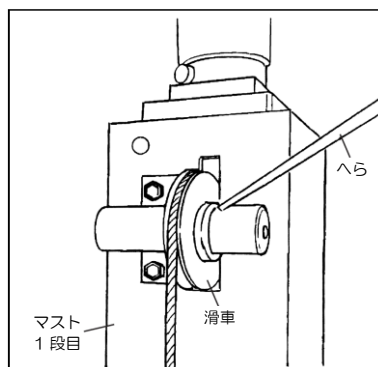


(5) 滑車へのグリス塗布

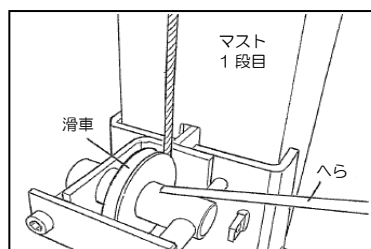
- 1 シープカバーを固定しているボルト 2 ケとボルト・ナット 1 組を外します。



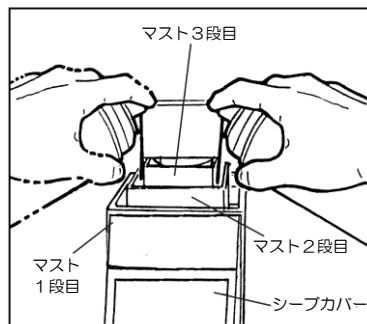
- 2 上側の滑車の摺動部に、へら等を使用して弊社指定グリス（モリHDグリス）を塗布します。



- 3 手順 2 と同様に、落下防止装置についた滑車の摺動部にも弊社指定グリス（モリHDグリス）を塗布してください。

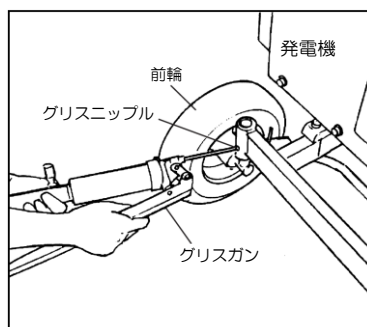


- 4 2段目と3段目のマストの間にも滑車（左右2ヶ所）がありますので、マストを最低位置まで下げて、上からスプレーグリスを塗布してください。



(6) 前輪操舵軸へのグリス注入

前輪の操舵軸軸受部のグリスニップル（左右2ヶ所）に、グリスガンを使用して弊社指定グリス（モリHDグリス）を注入してください。



13. 長期保管



警告：感電

- ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。



注意：やけど

- ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、ランプガード、安定器が高温になっていますので触れないでください。

<注意>

- 屋外保管のときは、バルーン布をバックルで留め、カバーを掛けてください。バルーン布が汚れるだけでなく、風による擦れや紫外線による劣化で、寿命が低下します。

本機を2ヶ月以上使用しないときは、次の手順で整備を行ってください。

- 1 発電機を取扱説明書に従って整備します。
- 2 泥や汚れを落とし、グリスを塗布します。
- 3 マストを完全に下げ、ワイヤーの張りをゆるめます。
- 4 灯具を収納し、カバーを掛けます。
- 5 保管場所に移動し、車輪ブレーキを掛けます。

14. 故障時の対応



警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- ランプなど点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。



注意：やけど

- ランプ点灯時や消灯直後は、ランプ、ランプガード、安定器が高温になっていますので触れないでください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。点検しても正常にならないときは、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申しつけてください。

症状	推定原因	処置
ランプが点灯しない	出力スイッチが「OFF」になっている（SBL132IE-Yを除く）	出力スイッチを「ON」にする
	消灯後すぐに再点灯させた	消灯後約 15 分待って、ランプが冷えてから点灯させる
	ランプが安定器に適合していない	適合ランプに交換する
	ランプがゆるんでいる	ランプを確実に締め込む
	ランプの寿命劣化	ランプを交換する
ランプが暗い	ランプの寿命劣化	ランプを交換する
	バルーン布が汚れている	汚れを拭き取る（揉み洗いは不可） バルーン布を交換する
バルーン布が膨らまない	バルーン布に大きな穴があいている	バルーン布を交換する
	ファンが回っていない	修理
	バルーン布が濡れている	バルーン布を乾かして使用する
バルーン布の膨らみが弱い	ファスナーが開いている	ファスナーを閉じる
	マジックテープが剥がれている	マジックテープを貼り直す
	フィルターの目詰まり	フィルターを清掃する
	バルーン布に小さい穴があいている	補修
	バルーン布の寿命劣化	バルーン布を交換する
バルーン布は膨らんだままランプが消える	ランプの寿命	ランプを交換する
バルーン布がしぼんだ後ランプが消える	ファンが止まって過熱防止装置が作動した	ファンの修理、交換
マストが上がらない	マストの滑りが悪い	摺動面にグリスを塗布する
	滑車の回転が悪い	滑車にグリスを塗布する
	マストの間に異物が入った	修理
マストが下がってくる	ウインチのブレーキが故障	修理
マストが下がらない	マストの滑りが悪い	摺動面にグリスを塗布する
	落下防止装置が誤作動している	修理（ウインチを巻き上げ、マストに力を掛けながらゆっくり下げる）
	マストの間に異物が入った	修理

MEMO

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.

MEMO

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
Tel 0120-176-181（製品・技術的なお問い合わせ）
受付時間：弊社営業日 9:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-1005（代）

北海道支社

〒 004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20 Tel 011-891-2249（代）

東北支社

〒 984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50 Tel 022-288-0511（代）

東日本支社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-1091（代）

中部支社

〒 452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39 Tel 052-502-4111（代）

西日本支社

〒 701-0221 岡山県岡山市南区藤田 566-159 Tel 086-296-5911（代）

九州支社

〒 816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7 Tel 092-573-5361（代）

ご用命の際はご購入いただいた販売店へご連絡ください。